

# コルテバ・アグリサイエンス 2030 のサステナビリティ目標 土地

2030 年までに、世界の 3,000 万ヘクタールの農地で土壌の健全性を改善

- 土壌の健全性は、地域のサステナビリティの成果です。
- 当社ではパートナーとの協力の下、地域に関連する土壌の健全性評価の枠組みと具体的な評価指標の特定を計画しています。これらの地域の枠組みと指標を使用して、ベースライン評価を実施し、目標達成に向けた進捗を数値化します。
- 土壌の健全性を改善するさまざまな管理システムによる経済的利益を評価することが、この目標の重要な要素となります。
- 優先的な作付システムは地域によって異なることから、最大限の効果を目指して次のように決められています。
  - アフリカ、中東: トウモロコシ
  - アジア太平洋地域: とうがらし、トウモロコシ、ブドウ、米
  - カナダ: キャノーラ、トウモロコシ、小麦
  - 欧州: トウモロコシ、菜種
  - ラテンアメリカ: トウモロコシ、米、サトウキビ
  - 米国: トウモロコシ、ジャガイモ、米、トマト

# コルテバ・アグリサイエンス 2030 のサステナビリティ目標 土地

2030 年までに世界の農産物生産におけるウォーター・スチュワードシップ（水資源の責任ある管理）の発展を次のように支援

- 2030 年までに、世界中の農地における窒素の使用効率改善の加速を支援
- 2020年から2030 年の間に、250 万ヘクタールの種子生産農地と水不足の農地で、収穫量増加を図ると同時に水の消費量を削減
- 窒素は水質を測る上で重要な要素であり、窒素使用効率 (NUE) は窒素流亡を抑制するための指標となります。当社では、水質に対するリンの重要性を認識しており、世界的規模でリンの責任ある管理を追跡する基準を継続的に追求してゆきます。
- NUE は、面積あたりの収穫量を、窒素投下量で割り算して求めます。収穫量を最適化し、使用した窒素量 (合成窒素と有機窒素を含みます) を維持または削減すると NUE が上がります。
- NUE を基準として選択した理由は、世界中の生産者に知られていて共感が得られること、改善が本当に加速しているかどうかを知ることができる履歴データが各国で入手できることにあります。
- 改善の加速は、傾向線を上回る改善速度への貢献度として規定します。
- 各国の NUE の傾向線は、次の公開されている情報源を使用して計算できます。
  - <https://www.ifastat.org/plant-nutrition>
  - [https://lib.dr.iastate.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1554&context=card\\_wor\\_kingpapers](https://lib.dr.iastate.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1554&context=card_wor_kingpapers)
  - <http://www.fao.org/tempref/docrep/fao/009/a0787e/A0787E00.pdf>
  - <http://www.card.iastate.edu/publications/synopsis.aspx?id=1178>
- この目標は、R&D (ウォーター・スチュワードシップを改善するシステムの開発) および生産現場への技術指導を通じた実用化の両方を通じて達成しなくてはなりません。
- 水不足にさらされている農地は、WRI の アキダクト (Aqueduct) ツールを使用して特定します。
- 優先的な作付システムは地域によって異なることから、最大限の効果を目指して次のように決められています。
  - アフリカ、中東: トウモロコシ
  - アジア太平洋地域: とうがらし、トウモロコシ、ブドウ、米
  - カナダ: キャノーラ、トウモロコシ、小麦
  - 欧州: トウモロコシ、菜種
  - ラテンアメリカ: トウモロコシ、米、サトウキビ
  - 米国: トウモロコシ、ジャガイモ、米、トマト

# コルテバ・アグリサイエンス 2030 のサステナビリティ目標 土地

2030 年までに、持続可能な管理実務と棲息地保全を通じて、1,000 万ヘクタールを超える世界中の放牧地と自然生態系で生物多様性を増進

- 持続可能な管理の実務は、地域との関連が深いものとなり、一般的には、天然資源の保全、人々とコミュニティの支援、動物の健康と繁栄の促進、効率、イノベーションの中核的な原則に則ります。
- 当社では、専門知識、リソース、デジタル ツールを含む技術サポートと製品サポート、さまざまな取り組みを提供し、世界中の 6 つの各事業地域で生物多様性を増進することを計画しています。
- 放牧地における持続可能な管理によって、生産性の向上を図りながら (技術の採用、家畜密度、輪環放牧など) 家畜と野生生物との共存を促進できます。
- 当社では、パートナーとの共同作業により、生物多様性増進の優先地域の特定を計画しています。各地域のチームが、その地域で最も効果のあるイニシアチブと手法を判断します。